様式３

令和７年度学生支援プロジェクト事業最終報告書

# つなごう、盆栽の未来へ
# ～高校生と歩む高松盆栽～

**代表者　　岡　瑞希　（経済学部経済学科２年）**

## １．目的と概要

現在、海外において日本の文化や伝統工芸は『cool Japan』と評価されており、盆栽も『BONSAI』の表記で海外からの人気が高まっている。

一方で、香川県高松市は松盆栽の全国シェアの約８割を占める名産地であるにも関わらず、国内における高松盆栽の知名度は低く、若い世代には親しみがない、後継者不足という問題を抱えているのが現状である。これらの背景には、一般的に盆栽に対して抱かれる「男性」「高齢者」「高価」のような親しみにくいイメージが影響していると考えられる。

そこで、世間のイメージとは正反対の私たち女子大生が、プロの盆栽作家と盆栽に興味を持つ初心者を繋ぐ架け橋のような存在となり、高松盆栽の認知度向上を目指すことを目的として活動している。今年度は、香川県内外の高校生をメインターゲットとして、苔玉作り体験のワークショップを開催した。

## ２．実施期間（実施日）

令和７年６月２４日から　令和８年３月３１日まで

## ３．成果の内容及びその分析・評価等

今年度の事業では、香川県内外の高校生をターゲットとした苔玉作り体験のワークショップを行った。計６回のワークショップを実施し、総参加者は８３名となった。高校生向けワークショップでは、普段の活動で行っている苔玉作り体験に加えて、香川大学の特徴やプロジェクト活動の紹介、大学生活や受験のアドバイスなどを行う時間を設けた。高松盆栽だけでなく香川大学の魅力も伝えられる機会にもなったと考えられる。高校生向けワークショップの内容としては、高松盆栽や私たち Bonsai☆Girls Project の活動についての説明、苔玉作り体験、大学やプロジェクトの紹介と高校生との交流会である。交流会では座談会形式で質疑応答を行うことで、高校生からの大学や受験に関する多くの疑問に答えられた。

１回目は、８月２５日に香川県立坂出高校で行った。生徒４名、教員５名の計９名の参加者を迎えワークショップを開催した。事前にワークショップの荷物の準備を行っていたため、当日落ち着いて行動することができた。また、高校生との座談会では様々な話題について話すことができた。しかし、ワークショップに夢中になっているあまり、作業風景の記録撮影が十分に行えていなかった。今後は意識的に、作業工程ごとに写真を撮るなど工夫が必要だと感じた。

２回目は、１０月１７日に香川県立高松北高校でワークショップを行った。生徒２名、教員２名の計４名で開催した。少人数での開催であったが、和気あいあいとした雰囲気でワークショップを行うことができた。苔玉づくりを教える際、完成した苔玉の現物や写真を用意してもっとわかりやすく伝えたいという反省点が上がった。現在はパワーポイントと苔玉の見本で説明しているが、現物や写真の必要性も感じた。

３回目は、１２月２６日に岡山県立総社南高校でワークショップを開催した。生徒５名、教員５名の計１０名での開催であった。高松盆栽や香川大学の紹介について、真剣に聞いてくれたため嬉しく感じた。参加した高校生は１・２年生で、学年に合わせたプレゼンテーションや、座談会以外の活動についても検討すべきだと感じた。

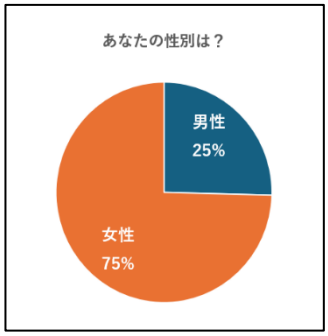
４回目は、２月１６日に香川県立高松商業高校で行った。生徒３８名、教員２名の計４０名で開催した。大人数での開催であったが、メンバー間で高校生のサポートをする範囲を分担し、均等に教えることができた。ワークショップ中、苔玉づくりが楽しいという声が聞こえ、活動の励みとなった。一方、準備中に備品が足りなくなったり、片付けに手間取ったりした。事前の荷物の確認や、効率の良い片付けの仕方などを徹底し、今後の活動において改善したい。

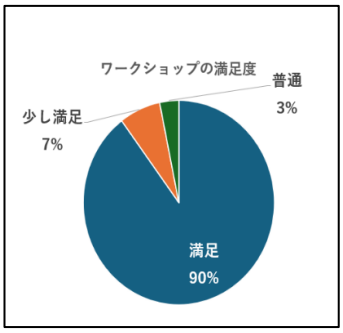
５回目は、２月１６日に香川県立観音寺第一高校でワークショップを行った。生徒３名、教員３名の計６名の参加者を迎え開催した。今回は３種類の苔玉を用意したが、それぞれの特徴や良さについて興味を持ってもらえることができた。香川大学志望の生徒もおり、大学についても話すことができた。反省点は、前日・当日の段取りがうまくまとまらなかったというのが挙げられる。事前に段取りを組むことを徹底し、スムーズなワークショップを行えるようにしたい。

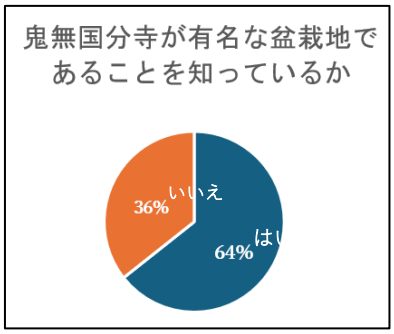
６回目は、３月５日に香川県立高松東高校で開催した。生徒１２名、教員２名の計１４名で開催した。苔玉づくり中も、座談会でも高校生たちと楽しく会話をすることができ、ワークショップを盛り上げることができた。苔玉づくりについて、作り方のコツやアドバイスなどが曖昧だったという反省点があった。この原因に、懇意にしている盆栽農家の方に苔玉づくりを教わる盆栽教室の開催数が少なかったことが挙げられる。今後は盆栽教室の開催を増やしたり、メンバー同士でも確認しあったりしたい。

以上のプロジェクト事業により、私たちがターゲットにしている高校生などの若者中心に多くの人々が盆栽に触れる機会を創出できた。また、今年度は県外の高校生も対象にしたことから活動の範囲が広がった。アンケート結果からは、参加者から高い満足度をいただいた。また、高松盆栽発祥の地である鬼無国分寺地区について知っているか、という回答も「知っている」と答えた人は６０％以上であった。今後も事業を継続することで盆栽の魅力を伝える機会を創出し、高松盆栽や Bonsai☆Girls Project の認知度向上だけでなく、地域の方とのつながりを大切にしていきたい。

【アンケート結果】



## ４．この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、高松盆栽の認知度だけでなく、香川大学や Bonsai☆Girls Project の認知度も向上させることができた。今年度はメンバーの母校を中心に、香川県内外の高校生を対象にワークショップを実施したため、県外の高校生に高松盆栽の存在を知ってもらうとともに、県内の学生にとっては地元の魅力を再認識する機会となった。高校生向けのワークショップでは、苔玉作りに加え、香川大学の紹介や他の地域活性化プロジェクトの紹介なども行った。開催校から大学についてどんなことが知りたいかなどを聞き取ることで、より質の高い紹介をすることができた。これにより、大学受験を控える高校生や、これから進路を考える高校生に香川大学の魅力や香川大学ならではのプロジェクト活動について知るきっかけを提供することができた。また、自身の SNS での情報発信や地元タウン誌「NICETOWN」での活動掲載、テレビ出演などを通じて、高松盆栽や香川大学の地域活性化プロジェクトの魅力を広く PR することができた。

地域社会に与えた影響としては、香川の名産品である高松盆栽を通じて、鬼無や国分寺地区といった地域の活性化に貢献することができた。次世代に盆栽の魅力を発信することで、冒頭に述べたような盆栽業界が抱える課題の解決にもつながる。他にも、盆栽に気軽に触れることができる機会を創出したことで、盆栽について身近に感じてもらうことができた。高松盆栽について、関心を持つきっかけづくりができた。また、定期的な盆栽教室やワークショップの開催により、地元の盆栽作家や企業、学校等とのつながりが生まれた。

## ５．自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今年度開催したワークショップは、昨年度に引き続き、高校生を対象としたものであった。高校生向けワークショップはこれまでの活動で行っていたことから、メンバー間で意見を出し合い、従来の形式に新たな要素を取り入れることを目指した。その結果、初めて開催する高校や香川大学への進学希望者が多い高校でワークショップを実施し、活動範囲が広がったことを実感した。ワークショップの際に、相手に分かりやすい伝え方、ためになる内容などを考え実行することで、魅力を発信する能力や企画力を養うことができた。ほかにも、高校生との交流を通して、コミュニケーション能力を向上させる機会にもなった。ワークショップを実施する中で、高松盆栽や私たち自身の活動に対して好意的な反応をもらったことで活動の励みになった。さらに、ワークショップ後には必ず振り返りを行い、反省点や課題を明確にし、プロジェクト内で解決策を模索することで、次回のワークショップに活かした。また、高校の教職員の方々との交流を通して、礼儀作法やマナーについても学ぶことができた。

## ６．反省点・今後の展望（計画）・感想等

今年度の反省点は、大きく２つある。

１つ目は、高校への依頼が後ろ倒しになり、年度末の予算執行が多くなったことである。この原因に、高校への連絡がスムーズに進まなかったことが挙げられる。高校への最初のコンタクトをメールで行っていたため、メール送信が遅くなったり、返信がもらえなかったりした。そのため、今年度後半からは最初のコンタクトを電話で行うことで、アポ取りをスムーズに行えるようにした。来年度も、初回のアポ取りは電話で行うことを心がける。また、年度末の予算執行が多くならないように、どのあたりでワークショップを実施するかの年度計画を立て、計画的にワークショップを実施する。

２つ目は、高校ワークショップの実施日が決定しても、参加希望者が集まらなかったため、開催できなかったことである。高校への連絡が遅れてしまったため、高校生が参加しやすい日程を確保できなかったことが原因の一つと考えられる。来年度は早期に連絡を行い、参加する高校生や学校にとって都合のいい日程を提示できるようにする。さらに、募集チラシのデザインや内容を工夫し、より多くの人に興味を持ってもらえるように改善を図りたい。

一方、今年度、実際にワークショップを実施した高校や、開催が実現しなかった高校も含め、お声がけした多くの高校から、来年度以降の開催にも期待していると声をかけていただいた。これらの反省点を踏まえて、今後はこれまでのワークショップに新しい要素を加えながら、より質の高いワークショップを実現できるよう、メンバーで案を出し合い、さらに改善を重ねていきたい。

## ７．実施メンバー

代表者　岡　瑞希（経済学部２年）

構成員　大井　香穂（経済学部４年）
嶋津　千咲（創造工学部４年）
池井　あずさ（経済学部３年）
木元　さくら（経済学部３年）
西崎　玲音（経済学部３年）
森本　美咲（経済学部３年）
岡嶋　羽菜（創造工学部３年）
石原　果穂（経済学部２年）
玉水　佳凛（農学部２年）
福田　桃子（法学部２年）
荒谷　菜々風（経済学部１年）
海老原　京呼（経済学部１年）
竹山　綾乃（経済学部１年）
神門　純（法学部１年）
竹本　理世（経済学部４年）
芦内　奈菜（経済学部３年）
伊丹　礼（経済学部３年）
妹尾　萌花（経済学部３年）
松村　萌香（経済学部３年）
猪谷　蒼月（法学部３年）
三好　菜月（創造工学部３年）
鴨井　咲來（経済学部２年）
湯藤　飛鳥（教育学部２年）
甲斐　楓（創造工学部２年）
伊藤　瞳（経済学部１年）
遠藤　もなみ（経済学部１年）
舟谷　美陽（経済学部１年）

８．執行経費内訳書

| 配　分　予　算　額 | | １９９，４４０円 | | |
|---|---|---|---|---|
| 執行経費（品目等） | 数量 | 単価(円) | 金額(円) | 備　考 |
| 苔玉・材料(８月２５日) | ９ | ２，２００ | １９，８００ | |
| 苔玉・材料(１０月１６日) | ４ | ２，２００ | ８，８００ | |
| 苔玉・材料(１２月２５日) | １０ | ２，２００ | ２２，０００ | |
| 交通費(高速代) | | | １，１２０ | |
| 苔玉・材料(２月１６日) | ４６ | ２，２００ | １０１，２００ | |
| 苔玉・材料(３月６日) | １４ | ２，２００ | ３０，８００ | |
| 合　　計 | | | １８３，７２０ | |